

特別講演

技能を技術に革新

～ 文明と文化 ～

概 要

従来、「きもの」の仕立ては一人の職人が畳に座って一枚一枚縫い、その技能・技術会得の為に4年～5年の年月が必要であった。

他の縫製業と同じように「きもの」の仕立ても昭和55年頃から海外へ流出し、10年～20年後には日本の中に縫う人がいなくなるのではとの危機感に「誰もやらなければ私がやろう」との思いで「着物用ミシン」を開発する目的で縫製工場^(注)を設立した。

始めはシステムを創り、ミシンの改造、流れ作業による品質向上、納期厳守、単一作業化を目指し、和裁士を雇用するのではなく、知識も技能も持たない人材を採用してきた。そして、きもの業界に「ミシンで縫っても手縫いに勝る」との評価を得て、月産6000～7000枚の高級呉服を仕立てる日本一の会社になった。

その後、平成7年から一人用ミシンの開発に着手した。短納期、専門店化、売上減少などに対応するには「一人の職人が仕立てる」矛盾があるが、20～30年前に戻ると思い、それに応じられるミシンの開発であった。出来上がった和裁専用ミシン「卑弥呼」は、(財)あさひ中小企業振興財団の「優良賞」を受賞し、和裁の知識や技能の無い人でも、1ヶ月の研修で女性用袷のきもの(市場購入割合70%のきもの)の仕立てを習得できるようになった。

日本人の職人を無くしては、日本の文化も滅びることになる。このことを多くの人に知ってもらい、普及に努めるとともに技能や技術と文化について考える。

日 時 2004年9月30日(木) 16:00～17:30

場 所 北陸職業能力開発大学校 A棟2F 第3講義室

講 師 白石 末子(しらいし まつこ)

昭和20年9月3日氷見市生まれ

(株)ラポージェ 代表取締役社長

富山県ハイテク和裁協同組合理事長、富山県

産業教育審議会委員、富山県科学技術会議委員、

富山職業能力開発推進協議委員など歴任。

昭和63年富山県産業経済功労賞受賞

平成15年富山新聞社「第21回富山風雪賞」受賞

著 書 いのち焔やして 文芸社

(注) (株)ラポージェ 会社概要

和裁工房 卑弥呼

手縫い工程を徹底分析し、機械化された和服縫製システムを確立。国内オーダー仕立ての受注は業界首位。「和服用縫製力セットとその縫製方法」や「和服縫製用ミシン」等の特許を持ち、自社開発の縫製機械の販売も業界を問わず行っている。

現在デザイナーによるきものリフォーム「R Made Kimono」を全国展開中。

平成9年10月 富山県中小企業創造的事業活動に認定。

